

校舎配置案ごとの特徴比較

既存		A：北側配置	B：南側配置	C：東側配置	D：西側配置
建物配置イメージ					
比較項目	A：北側配置	B：南側配置	C：東側配置	D：西側配置	
延床面積	5,033㎡	8,111㎡ (学校 7530㎡+コミふら 581㎡)	8,117㎡ (学校 7491㎡+コミふら 626㎡)	8,350㎡ (学校 7683㎡+コミふら 667㎡)	8,147㎡ (学校 7523㎡+コミふら 624㎡)
校舎環境	教室配置	・普通教室は2～4Fに学年ごと ・特別教室は2Fに集約	・普通教室は2～4Fに学年ごと ・特別教室は2～3Fに分散	・普通教室は2～4Fに学年ごと ・特別教室は2～4Fに分散	・普通教室は2～4Fに学年ごと ・特別教室は2～4Fに分散
	体育館の面積	・必要面積を満たす	・敷地条件より必要面積より1割強不足する	・必要面積を満たす	・必要面積を満たす
窓先の環境、日照、採光	・普通教室は南側(校庭側)	・普通教室は南側だが隣地に近接する	・普通教室は西側にあり午後と西日の影響を受ける	・普通教室は東側(校庭側)	
校庭面積	約4,400㎡	約4,596㎡	約4,316㎡	約4,354㎡	約3,660㎡
校庭環境	校庭配置・形状・広さ	・既存同等程度の面積を確保	・既存校舎を使いながら工事を行う計画のため、新築の建物配置は既存校舎の位置に影響され、校庭が整形な形状で確保出来ず、150mトラックとテニスコートが干渉する	・トラックの長辺が敷地の短手方向に配置されるため、テニスコートを配置するスペースが確保出来ず、150mトラックとテニスコートが干渉する	・トラックの長辺が敷地の短手方向に配置されるため、テニスコートを配置するスペースが確保出来ず、150mトラックとテニスコートが干渉する
	日照	・ほとんど日影は生じない	・冬季は終日日影となる部分がある	・ほとんど日影は生じない	・ほとんど日影は生じない
日影	・敷地北西側は既存校舎より日影の影響が小さくなる一方、敷地北東側に新たな日影が発生する。	・校舎が敷地南側となることより既存校舎より日影の影響が小さくなる一方、敷地西側に新たな日影が発生する。	・校舎が敷地東側となることより既存校舎より日影の影響が小さくなる一方、敷地北東側に新たな日影が発生する。	・敷地北西側は既存校舎より日影の影響が小さくなる。	
周辺環境	周辺への圧迫感	・これまでの環境と比較的変わらない	・敷地南・東側について、校庭として利用されていた部分に4階建ての建物が建設されるため、これまでの環境と異なる	・敷地南・東側について、校庭として利用されていた部分に4階建ての建物が建設されるため、これまでの環境と異なる	・敷地南・西側について、校庭として利用されていた部分に4階建ての建物が建設されるため、これまでの環境と異なる
	校庭の音・砂ぼこり	・建物のない南・東・西側に影響が生じる可能性 ・舗装仕様の検討が必要	・建物のない北・東・西側に影響が生じる可能性 ・舗装仕様の検討が必要	・建物のない南・北・西側に影響が生じる可能性 ・舗装仕様の検討が必要	・建物のない南・北・東側に影響が生じる可能性 ・舗装仕様の検討が必要
地域開放	地域利用諸室のまとまりとセキュリティ	・学校開放エリアが2階に集約されるため校内のセキュリティエリアが設定しやすい	・学校開放エリアが2・3階にあり工夫が必要	・学校開放エリアが2・3階にあり工夫が必要	・学校開放エリアが2・3階にあり工夫が必要
コミふら	フロア数	・1階	・2階	・2階	・1階
工事計画	工事中の運動施設	・仮設体育館を利用可能 (既存体育館より小さい) ・プールは利用不可	・既存体育館を一部利用可能 (改修の際に舞台を解体、また構造的に問題ないか確認が必要) (改修により体育館の利用が出来ない期間が発生する) ・プールは利用不可	・仮設体育館を利用可能 (既存体育館より小さい) ・プールは利用不可	・体育館、プールは利用不可 (工事期間中に体育館を利用できるようにするには、工事期間中に仮設体育館の建替えが必要となる。)
	仮設校舎	・仮設校舎・体育館が必要	・不要	・仮設校舎・体育館が必要	・仮設校舎が必要
工事期間(想定)	・A案を基準とする。	・コミふらを二期工事で建設するため、仮設校舎が不要となるが、コミふらを二期工事で建設するため、A案と比較して工期が長くなると考えられる。	・プールの事前解体が必要となるため、A案と比較して工期がやや短くなると考えられる。	・既存体育館解体と既存校舎解体の時期が分かれるため、A案と比較して工期が長くなると考えられる。	
コスト(解体・仮設・改築)(想定)	・仮設校舎に加え仮設体育館が必要となるため、総コストは4案のなかでは比較的高いと考えられる。	・仮設校舎が不要となるため、総コストは4案の中で比較的低いと考えられる。 ・ただし、工事工程のSTEP数が他案より多いことによる影響により、工事費が増になる可能性がある。	・仮設校舎に加え仮設体育館が必要となるため、総コストは4案のなかでは比較的高いと考えられる。	・配置計画1、仮設体育館の建設が不可であるため、A・C案に比べると仮設に関するコストが低い。 ・ただし、工事工程のSTEP数が他案より多いことによる影響や仮設体育館の設置の有無の検討により工事費が増になる可能性がある。	

※図案及び比較は現時点の検討結果であり、今後の検討や関係者との協議により変更となる可能性があります。